

みつね 年
 余所尔 見
 よそののみ恋や
 王多 農
 わたらん白山の
 支美 越
 ゆきみるべくも
 あらぬ我身を

※昇試随意参考（条幅・半紙）として
 ご活用下さい。抜粋可。

一字書（三月二十二日締切）

課題

鶯

- (1) 書体自由
- (2) 半紙タテ ※ヨコは中止
- (3) 落款は余白に調和を工夫し書き入れる
- (4) 出品料 四三〇円
- (5) バーコード券貼付 太枠内の臨昇の隣の空欄に一字と記入 段級は無記入

今月は昇試課題発表月ですが「一字書」は出品出来ません。推薦取得者始め多くの会員のチャレンジを期待しています。

A

高橋香樹会長書

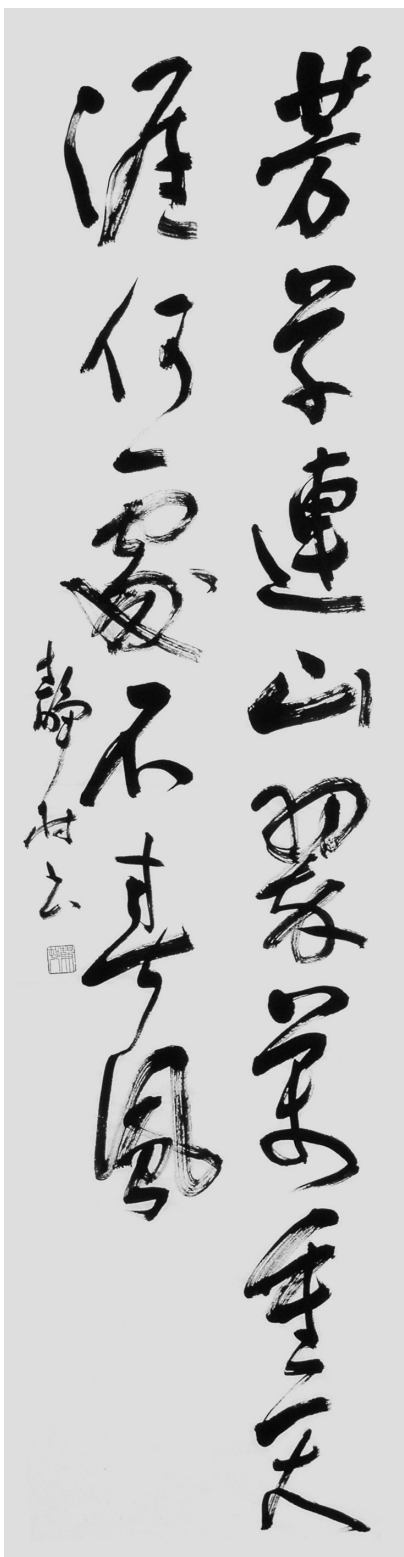
芳草連山翠萬重 天涯何處不春風 (劉秉忠)
芳草山に連り翠は萬重、天涯何れの処か春風ならざる。



B

鈴木静村先生書

久し振りに濃墨で書いてみました。手本では渴筆をあまり出さないようにと思いついて書いていますが、濃墨だとしても渴筆が多くなってしまう。そこで、なるべくゆっくり書くことにしました。しかし、弾力を使う運筆では、やはり、渴筆は多くなってしまう。墨継ぎは、「重」と「不」です。



草書を多く、流れに躍動性を表出。連綿の実画は、「重天・何処・春風」ここで要注意は「実画」になっているからといって、真似にこだわると失敗しやすい。落款は左に書くことを規範とされている向きもあるが、余白の処理、布置構成との調和から考えて二行目下でもどちらでもよい。

訳：芳草は山までつぎ無限にかさなる線、空のはてまで春風の吹かぬ所はない。

予告 (四月二十二日締切)

朝辭白帝彩雲間

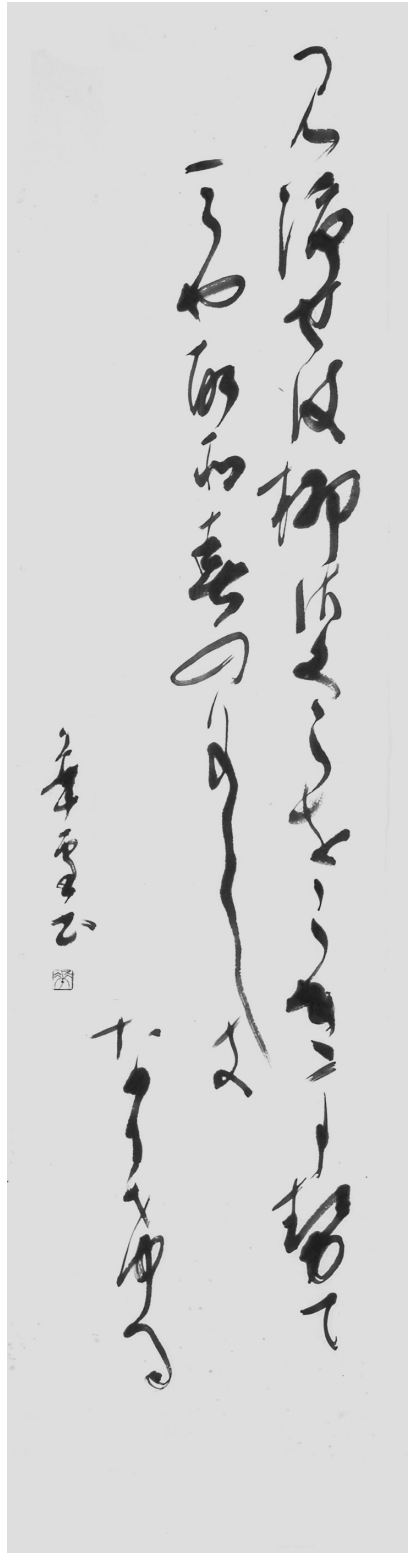
千里江陵一日還 (李白)

◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

A

平岡華雪先生書

見わたせば柳さくらをこきませて宮ごぞ春の錦なりける(古今和歌集 素性法師)
見渡せば柳佐久らをこき万勢て三や故所春の尔し支なり希る



B

福田玉翔先生書

三万多勢八柳佐くら越こ支万せてみやこそ者流の尔しき奈利介る



学び方

〔歌意〕はるかに眺望すると緑の柳と紅の桜をみごとに織りなしてこの都が錦を敷き述べたようである。素性法師
百人一首十二番の歌「天津風雲のかよひぢ吹き閉じよ乙女の姿しばしとどめん」の僧正遍照の息子素性法師の歌です。色
彩的にとても華やかな雰囲気のある歌です。私は十年前程百人一首の歌枕(三十三カ所)を捜して全国を旅したことがあります。
歌枕とは歌に詠み込まれた名所です。この歌には明確な地名がありませんが多分平安京でしょう。桜の名所吉野と奈
良公園の奥の若草山(昔の三笠山)の光景が脳裏に浮かびました。百人一首は東北東側と奈良京都周辺の歌がほとんどで
す。その旅の途中の「・・・富士の高嶺に雪は降りつつ」の数少ない歌枕が私のホームタウンです。

古今集は遣唐使の廃止
による女性のかなの発
明が国文学の隆盛を見、
たをやめぶりと言われ
る格調の高い理知的な
歌集で、その中に随所
で詠われている。

予告(四月二十二日締切)

足引きのやまほとくぎすみ山いで、夜ふかき月の影に鳴くなり(金塊和歌集)

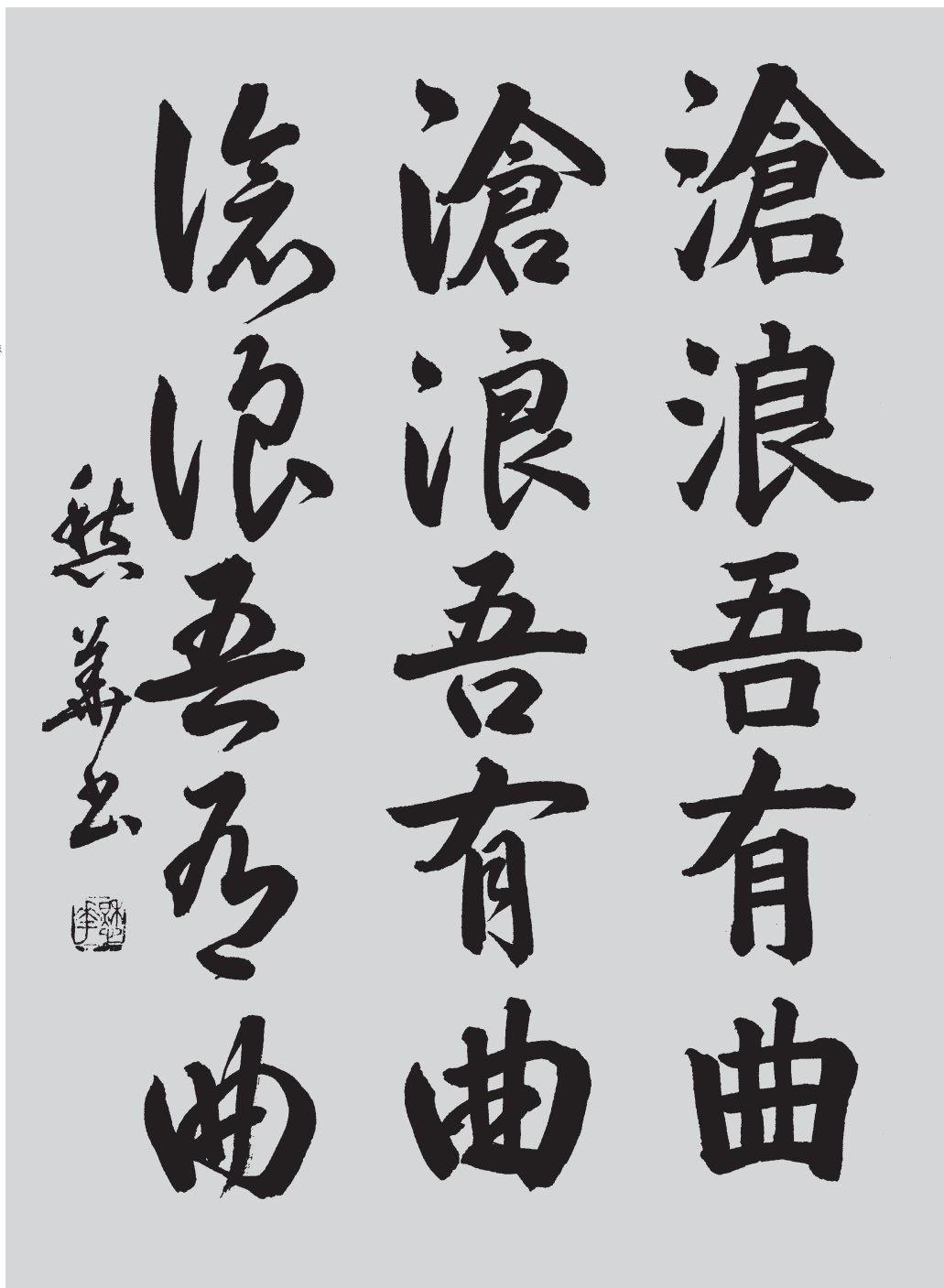
素性法師

生没未詳であるが、俗
名を良岑玄利と言い、
僧正遍正の子。大和国
石上の良因院に住し、
『素性集』がある。大陸
文化の精華をとり入れ
た萬葉時代の雄健の気
に満ちた歌調に比べて、

◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

石田愁華先生書

滄浪吾有曲(李白)
滄浪(そうろう) 吾(われ)に曲(きょく)有り

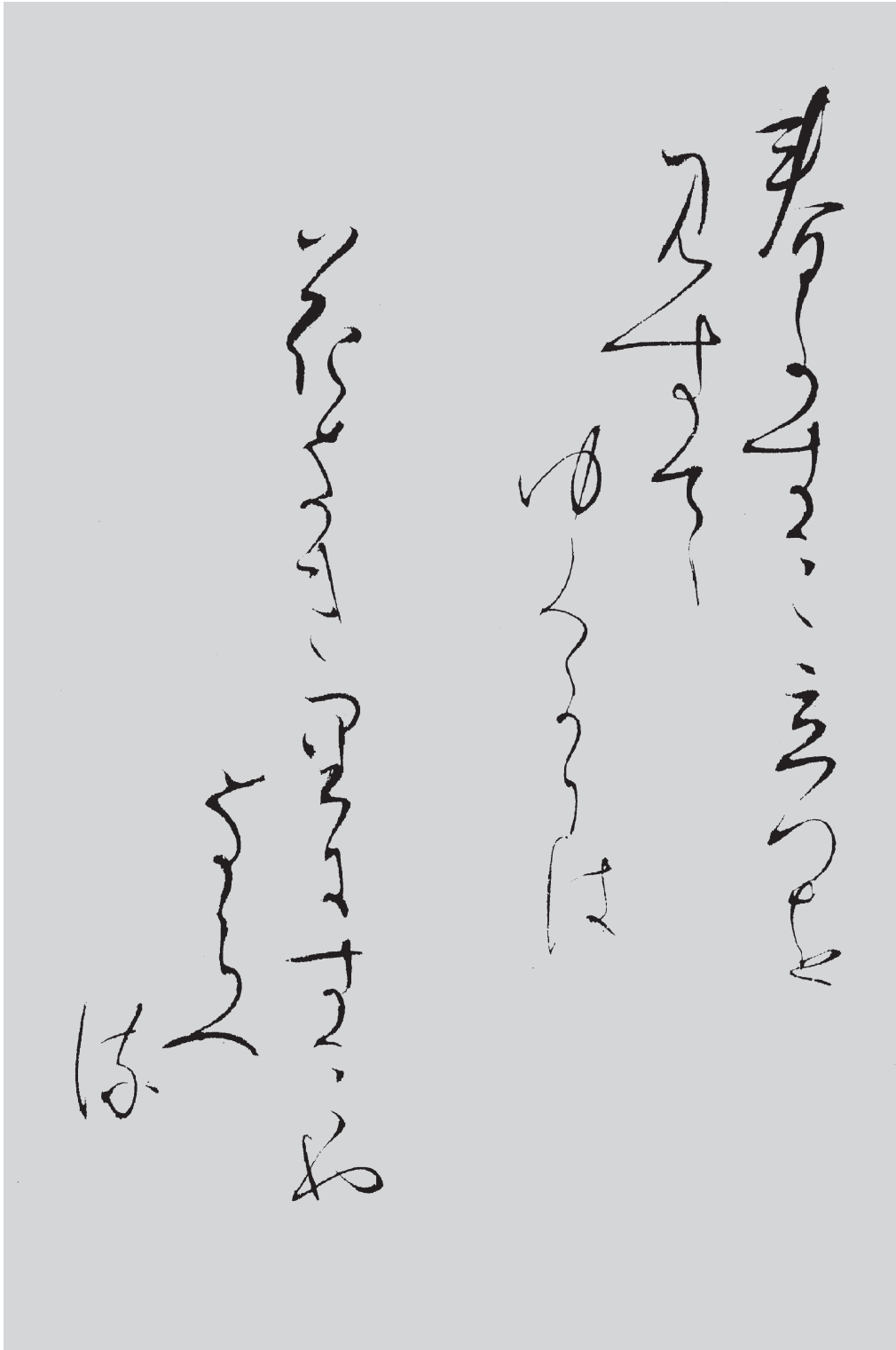


訳：武昌に流れ入る滄浪の水、――「漁父」ならぬ私にも一曲のうたがある。

◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

高塚竹堂先生書

春霞立つを見捨て、ゆく雁は花なき里に住みやならへる(伊勢)



◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。



平岡華雪先生書

鳥啼いて雲山静かなり(徐貴)

訳：雲のたなびく山に鳥がないて静かだ。

〈個々ポイント等〉

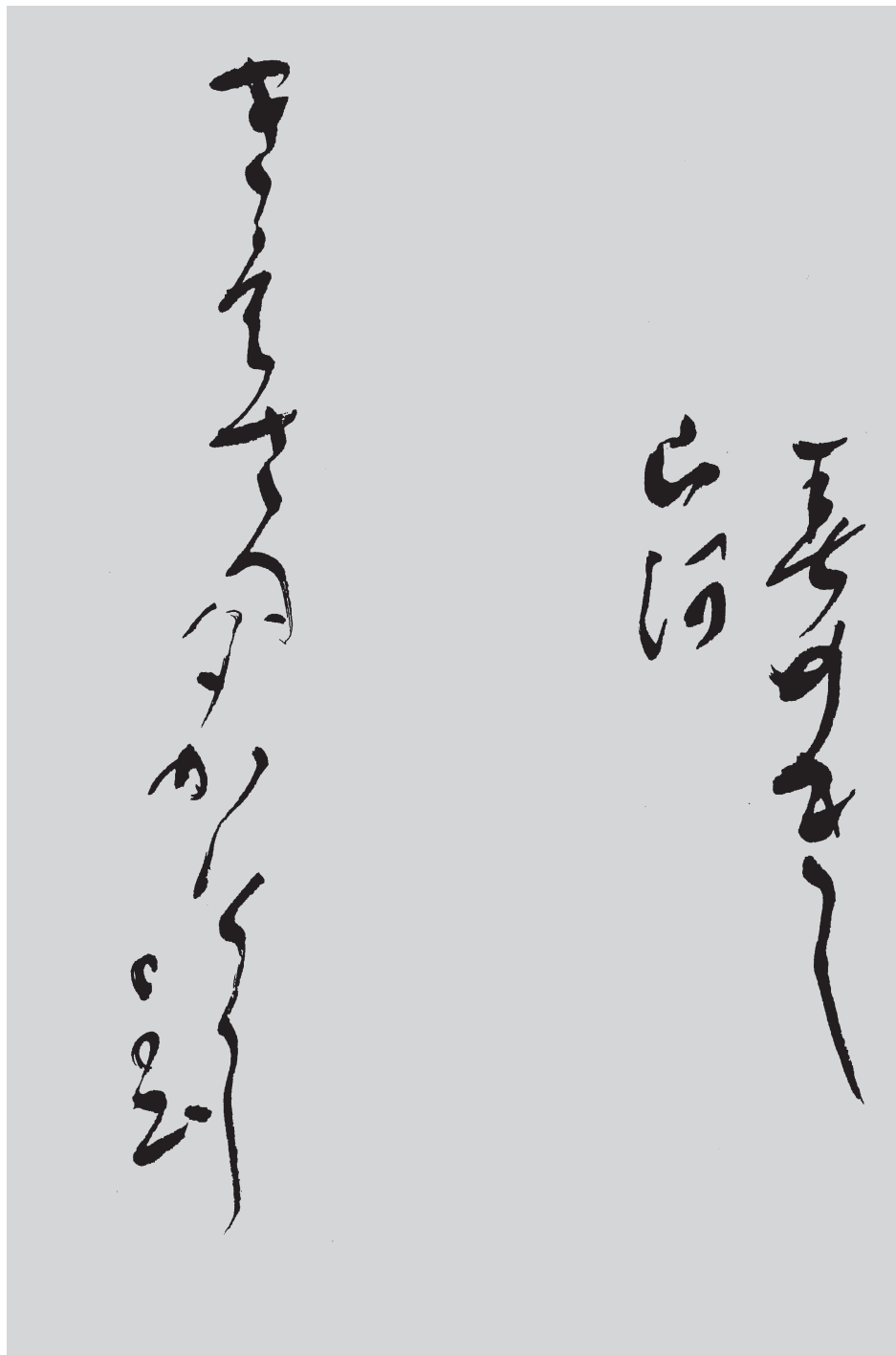
「啼」末画の縦画はのびやかにすっきり。「鳥」上半は縦長に下半は腰高く、連火は下がらぬように。「雲」、冠で字幅を。左行、「山」小さくもがっしりと、「静」旁「争」の末画が大切。

◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

平岡華雪先生書

春めきし山河消え去る夕かげり (虚子)

春めきし山河きえさる夕か介り



〈動きを大きく、リズム的に〉

右群と左群の対照、調和への工夫が大切。特に、右群は単調になりやすいので、筆意の変化に留意して下さい。なお、全体小さくまとまりがちですので字幅、緩急のリズムで動きを大きくするよう心がけて下さい。

◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

外川霞夕先生書

早鶯懷舊隨時至 芳草無情著處新（馬臻）
早鶯そうおう懷おも舊ふる時とき至きた 芳ほう草そう情じやう無なく處ところに著ちやくして新あたらなり。

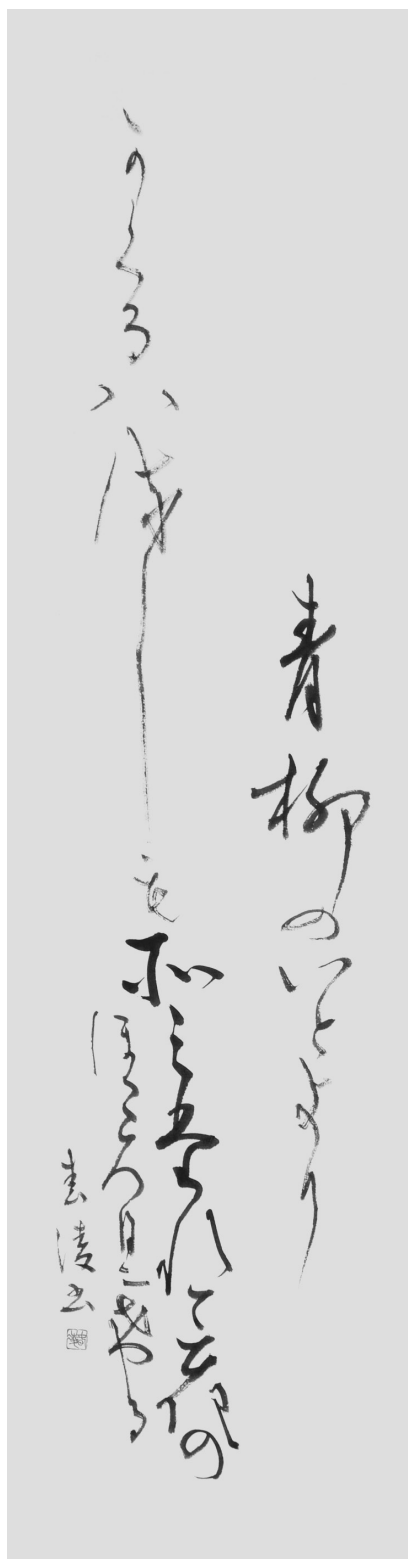
早鶯懷舊隨時至
芳草無情著處新

馬臻

訳：春早々のうぐいすは昔を忘れずに時候に応じて来り鳴き、美しい草は無情の物ながら処々に萌えでた。

武井春凌先生書

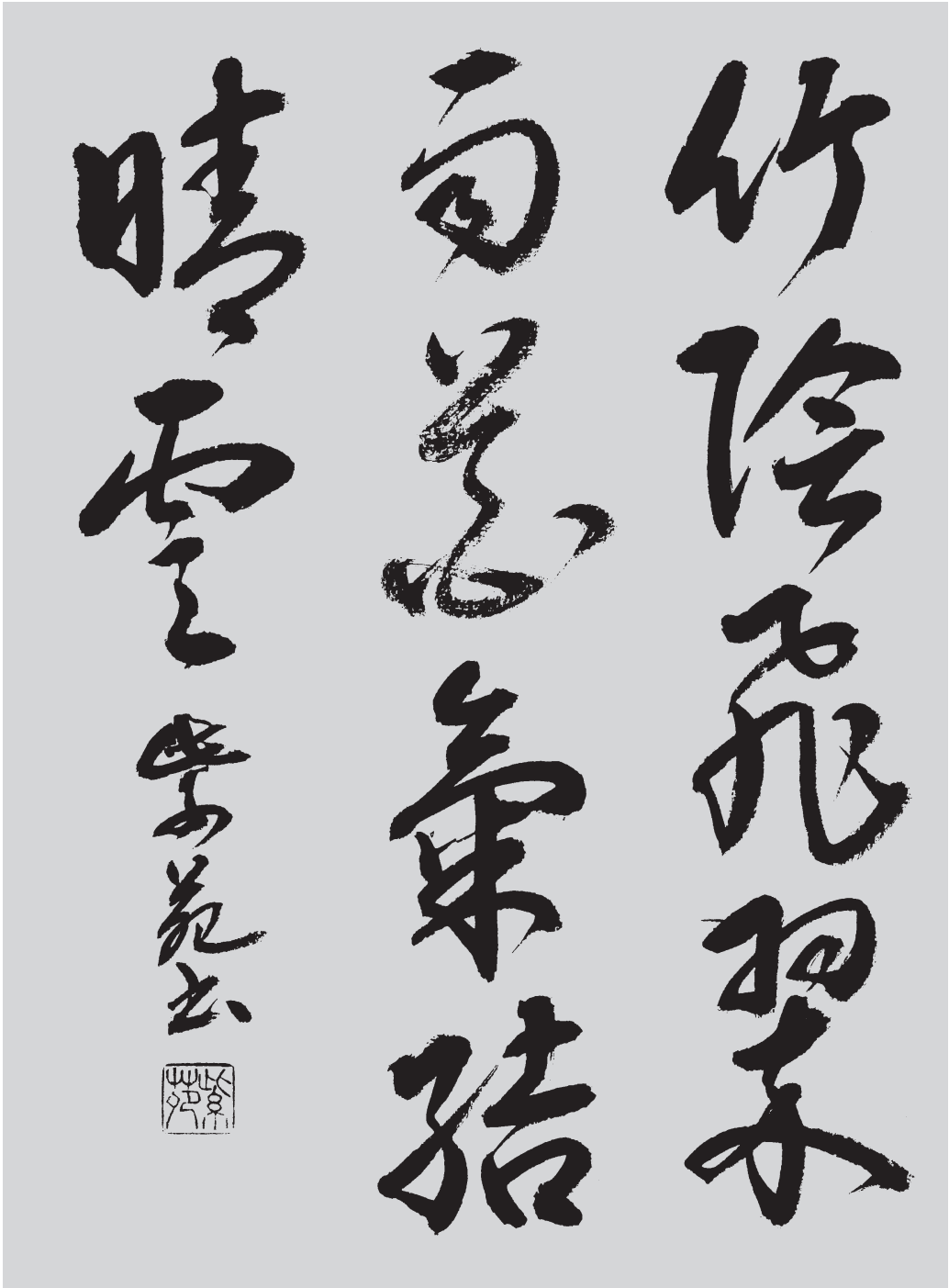
青柳あおやなぎのいとよりかくる春しもぞみだれて花のほころびにける（古今和歌集 紀貫之）
青柳のいとより可か久くる八流はるし毛所もところ三堂みだれて花のほころ日ひ二に希ける



◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

山田紫苑先生書

竹陰飛翠雨 花氣結晴雲（張祥鸞）
竹陰翠雨飛び、花氣晴雲結ぶ。

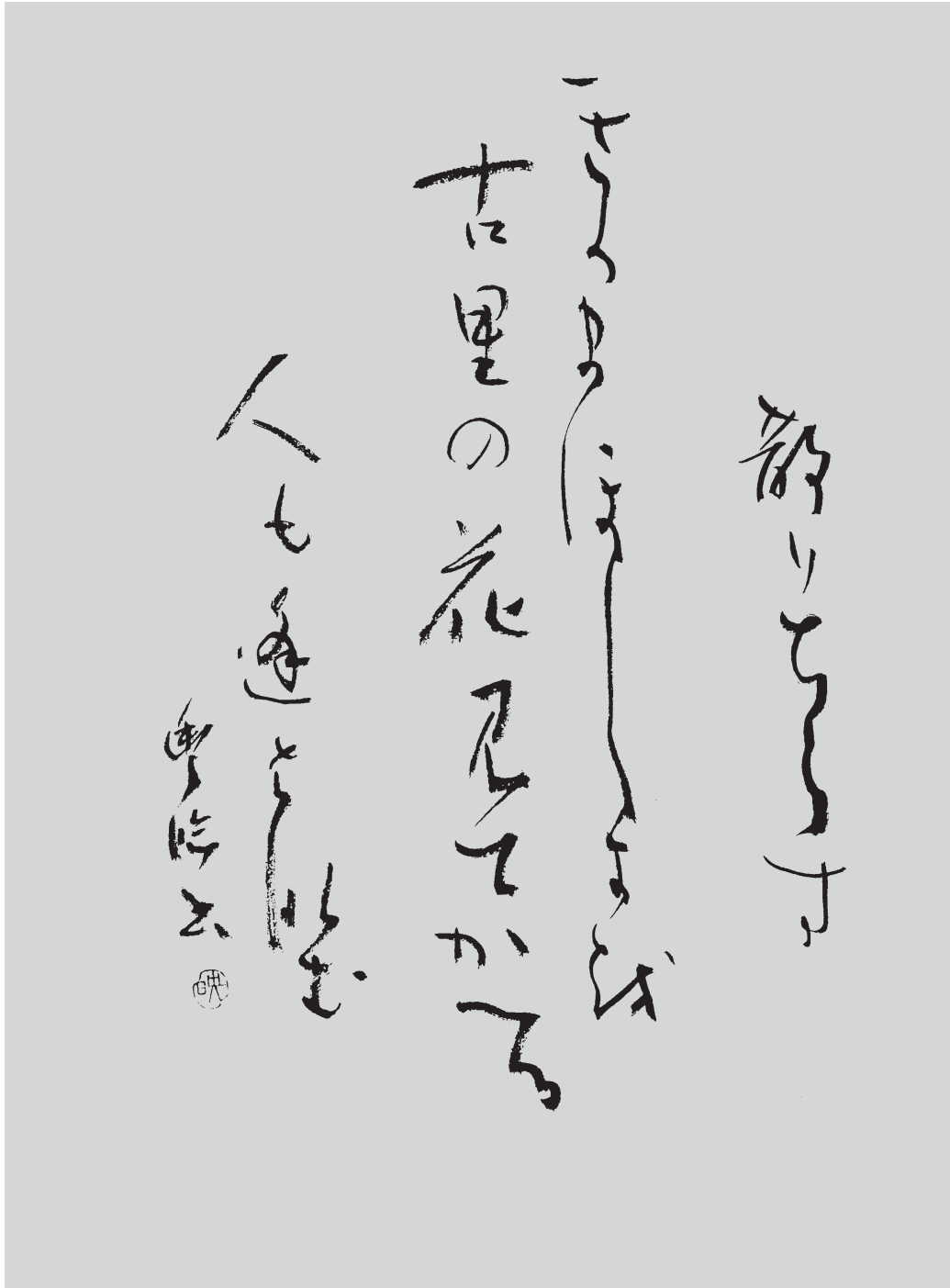


訳：竹のかげに降る雨はみどりが飛ぶように見え、花気は蒸して晴天の雲を成すかと思われる。

◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

吉原豊臨先生書

散り散らず聞かまほしきを古里の花見て帰る人も逢はなむ（拾遺和歌集 伊勢）
散りちらすき可末ほし支越古里の花見てかへる人も逢者那む



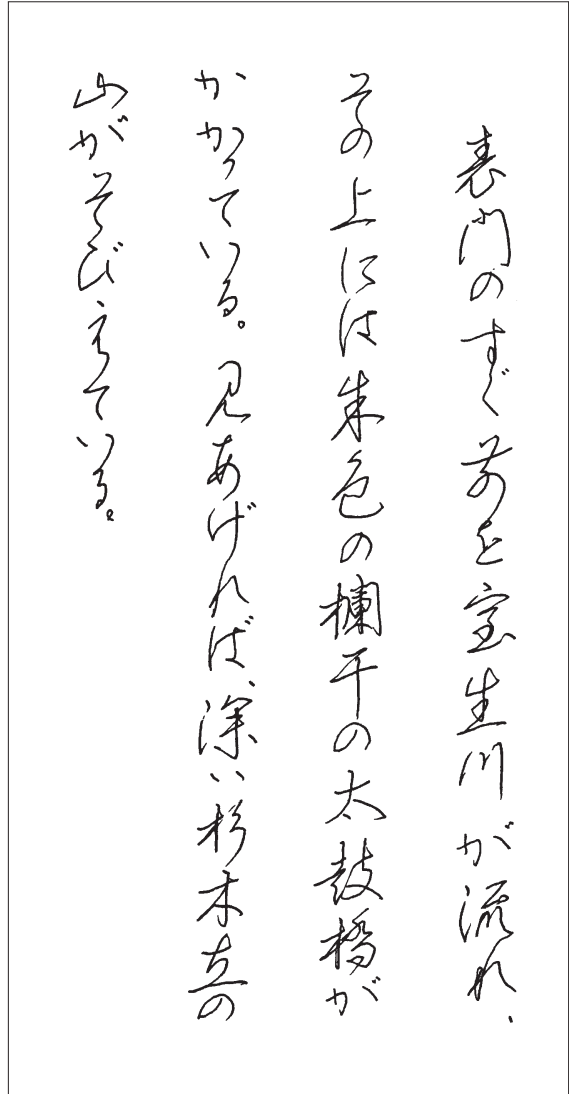
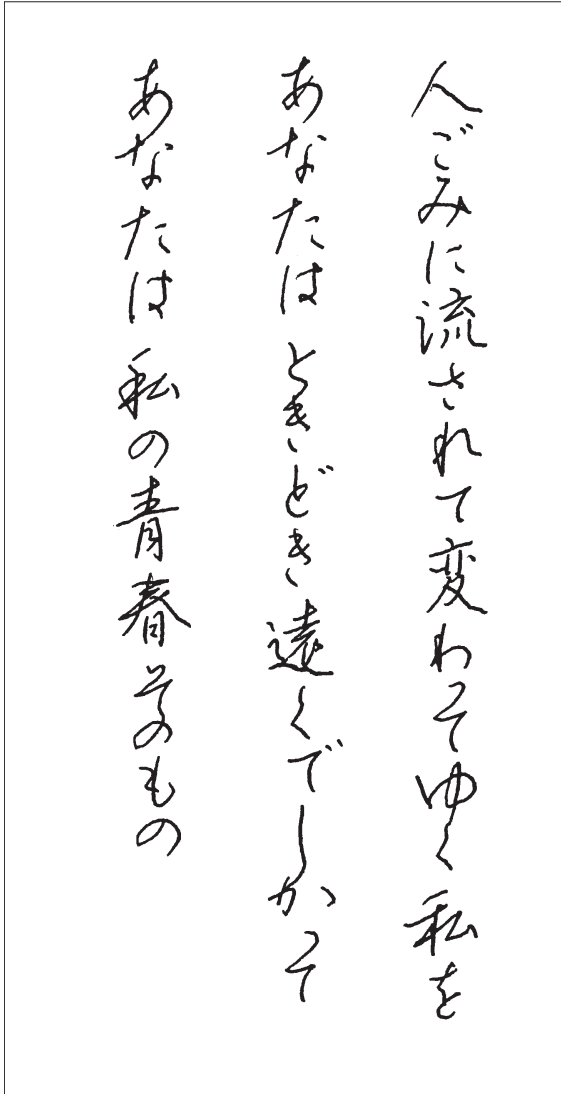
◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

稲畑 曄 穂 先生書

川上 香 蓉 先生書

課題 2 (初段階以下)

課題 1 (初段階以上)



課題 1 (初段階以上)

表門のすぐ前を室生川むろながわが流れ、その上には朱色の欄干らんかんの太鼓橋がかかっている。見あげれば、深い杉木立の山がそびえている。

『百寺巡礼』 室生寺 五木寛之

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。
- (2) ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位に)次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (5) 会員は無料・会員外は四三〇円

課題 2 (初段階以下)

人ごみに流されて変わってゆく私をあなたはときどき遠くでしかあなたは私の青春そのもの

『卒業写真』 荒井 由実